

在宅療養者の訪問看護導入の判断に関する研究

【キーワード：ケアマネジメント、訪問看護、ケアマネジャー】

領域・氏名

看護（老年看護学） 准教授／ 下吹越 直子

概要

高齢な在宅療養者が自宅で安定した生活を継続するには訪問看護サービスの有用性が認められています。在宅療養者と在宅サービスをつなぐケアマネジャーが、訪問看護サービスをスムーズに導入するための在宅高齢者のアセスメントツールの開発に取り組んでいます。

具体的な内容

地域包括ケアシステムの確立、地域共生社会の推進が強化され、今後、在宅療養者の増加が見込まれるなか、訪問看護は医療と介護の連携や多職種との連携を促進する重要な役割があります。しかし、ケアマネジメントとするケアマネジャーの在宅療養者へのアセスメントにおいて基礎資格が影響していることが報告されています。ケアマネジャーの研修では医療知識等の習得が強化されてきていますが、「訪問看護の必要性の判断が難しい」とする課題は残されたままです。この課題を改善するためには、ケアマネジャーが同じ視点で在宅療養者のアセスメントをすることや医療に関する研修が必要と考えます。

これまでの調査によって、訪問看護サービスを必要とする多くのアセスメント内容が明らかになっていますが、さらにデータを収集し、検証していきたいと考えています。

information

ケアマネジャー、訪問看護師の方で訪問看護導入の事例をお持ちの方、また、病院施設から在宅への移行に関するテーマについて共同研究ができる方のご連絡をお待ちしています。